

ときを越え
受け継がれるもの

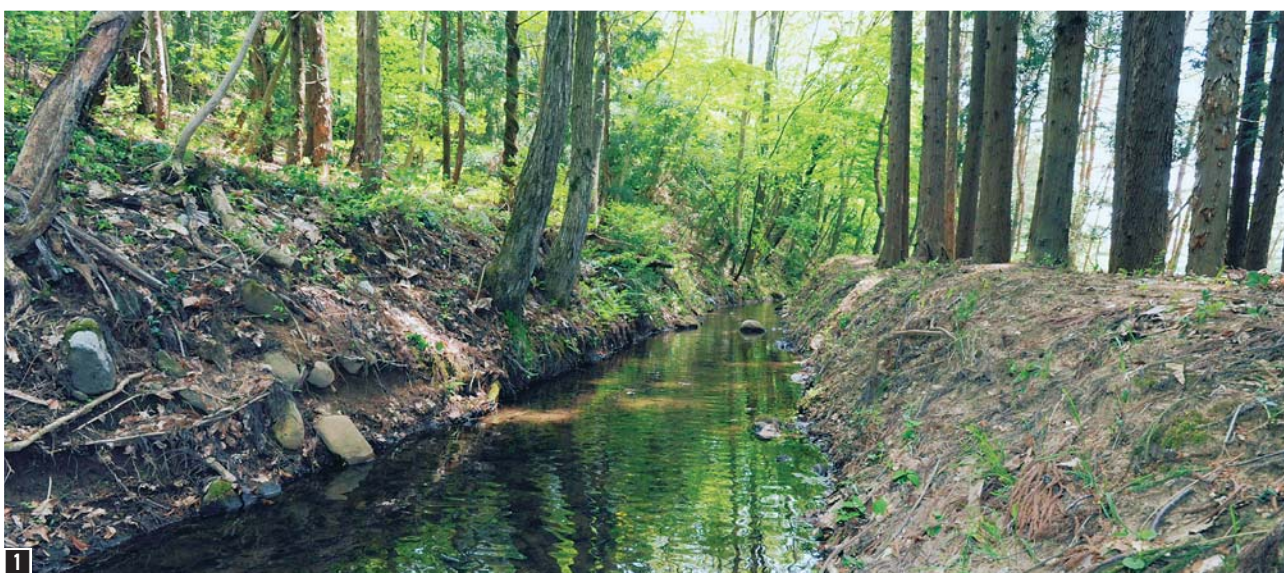
二ノ台堰（葦名堰・刑部堰）

＝ 衣川区増沢～胆沢区小山 ＝

衣川区増沢から胆沢区小山二ノ台まで、約24㌔にわたる水路。第31回奥州胆沢劇場「黄金の稲穂」不撓不屈の二ノ台の民」の題材となった二ノ台堰である。

葦名堰・刑部堰とも呼ばれるこの堰は、衣川荘の領主であった葦名氏が、和野村（現在の小山方面）の新田開発のため開削。寛文9年（1669年）に完成し導水が始まったと言われている。経路のほとんどが山で、地中を掘った「穴堰」と地表の「平堰」が繰り返し続く。水平に近い緩傾斜が維持された設計で、当時の測量・開削技術の高さに驚かされる。

ポンプ揚水場が設置された昭和40年代以降は、衣川1号ダム（増沢ダム）からポンプで取水。胆沢区までは新たに整備された二ノ台用水路で配水されているが、衣川区北股地区の一部の水田では、現在もこの堰の水を利用している。多くの人が豊作を願い掘り進んだ堰の流れは、今も変わらず大地を潤している。



1



2

1 青みが増す山林の中をゆったりと流れる恵みの水。北股地区の有浦坂や小田坂など、堰と道路が交差する箇所から、その姿を見ることができる

2 通水前の大平裏の湧き出し口。ぽっかりと空いた穴は大人が四つんばいでやっと入れる大きさ。手掘りしかない時代、大変な難工事だったと想像される（4月27日撮影）



広告